



のです。発表するのは気象庁(東京都千代田区)や全国各地の気象台(その多くは県庁所在地にあります)です。

★あなたの町の気象台と予報官

スパコンの計算結果(数値予報)は、気象庁専用の通信回線により全国の気象台にも届けられます。スパコンは皆さんの町の気象台とつながっているのです。予報官は、気象台で24時間365日(といっても、一人の予報官が不眠不休で作業をしていたら体が持たないので交替しながら行っています。)作業を続けているのです。

★おまけ・・・大切な電気

最後に、重要なお話があります。そうです、電気です。

気象庁でも、必要な電気は皆さんの家庭と同じように地域の電力会社から供給を受けていますが、地震や雷などで電力会社からの電力供給が止まってしまうらどうでしょう。スパコンも通信回線も、電気がないと動かない・つながらないですよね。

実は、各地の気象台には発電機があり、停電していても天気予報ができるようにしています。こんな風に、目立たない所にも多くの人やモノたちが天気予報の仕事を支えているのです。

今回は、天気予報の作り方を情報通信システム面から見てみましたがいかがでしたか？皆さんの町の気象台でも施設の見学を受け付けていますし、夏休みお天気教室なども開催しておりますので、ぜひ、一度遊びに来てください。

もりもと ちかお(大阪管区気象台)

広 告